

留学を終えて

斐太高等学校 前多 萌結（カナダ）

私はカナダのウィニペグという都市に約10か月間留学しました。ここでは、私が留学をすることになった経緯や留学先にカナダを選んだ理由、またカナダで驚いたことや留学から得たこと、そして留学を通して成長したと感ずることについてお話します。

まず、私が留学をしたいと思うようになったのは中学生の頃です。海外に興味を持っていたが、当時は留学することがとても難しいことだと感じていました。しかし、私が中学生のときに、私の姉が留学したことをきっかけに、留学が身近なものに感じられるようになりました。しかし、その時点では漠然とした憧れにとどまり、留学の行き先や時期などについて具体的に考えていませんでした。中学3年生のある日、高校生が参加できる留学プログラムを偶然知り、「大学進学を決める前に、私が知らない広い世界をもっと見たい」という気持ちが強まりました。迷いもありましたが、この機会は二度とないと考え、留学を決意しました。

私が留学先としてカナダを選んだ最大の理由は、カナダは世界有数の多民族国家であるということです。様々な国の人と関わることで、自分の世界が大きく広がると考えました。実際に、カナダ人だけでなく、フィリピン人やタイ人、ウクライナ人など、これまで会ったことのない国の人々と交流でき、その文化や言語について多く学びました。「自分の知らない世界はこんなにもあったのか」と実感するとともに、留学を終えてもなお、まだ知らない世界がたくさんあることに気が付きました。



次に、カナダで驚いたことは高校の教育スタイルです。カナダの高校では、日本の高校と大きく異なり、大学のような自由度と専門性を兼ね備えてカリキュラムを基本としていました。科目の幅が非常に広く、心理学やボランティア活動など、日本では受けることができない授業が多くありました。また、日本にもある音楽や美術といった科目でも、授業の規模や内容が大きく異なっていました。音楽では各自が異なる楽器を演奏し、最終的にはコンサートを開催していました。美術では、自分の顔に合わせた仮面の型を一から作り、オリジナルのデザインを施すなど、創造性を存分に発揮できる活動が多くありました。私自身も、ボランティア活動を授業の一環として行うなど、日本では経験したことのない取り組みを数多く体験しました。このような学びや経験を通して、自分の視野を広げることができただけでなく、今後の進路選択に大きく影響を与えてくれたと考えています。

留学を通して得た最も大きな学びは、「日本の当たり前は世界では当たり前ではない」ということです。私が暮らしていたウィニペグには「ノースエンド」という地域があり、多くのホームレスの人々が住んでいます。そのため、そこを通り過ぎれば警察官や消防士の方を見かけることがよくありました。日本での生活だけでは絶対に見ることのなかった光景です。さらに、日本のように街にはほとんどごみが落ちていないことや、交通機関が時間通りに運行することは、カナダ

では当たり前ではありません。このようなことは、きっと多くの他の国でも同様だと思います。留学を通して、日本の良さや誇るべき点を、日本から離れて初めて深く知ることができました。

最後に、私が留学を通して成長したと感じる点は積極性が身についたという点です。留学前の私は人見知りで、周囲の目を気にして自分がしたいことを行動に移せず、自信もあまりありませんでした。しかしカナダでは、私を知る人は誰もいません。友達を作るためにも、生活を楽しむためにも、自分から輪に入っていく必要がありました。最初は勇気が必要でしたが、思い切って知らない人に話しかけたり、興味のある部活に参加したりするうちに、少しずつ自信がついていきました。帰国後、私は学年を1年下げることになり、新しいクラスで友達作りを最初から始めました。以前の私ならためらっていた場面でも、自然と自分から他人に話しかけることができるようになっていました。また、以前からの知り合いにも「よくしゃべるようになったね」と驚かれるほどです。これは留学前の自分には想像もできない変化でした。



この10か月で、私の世界は確実に広がりました。同時に、自分が閉じこもっていた殻が取り払われ、違いを恐れず挑戦できるようになったと感じます。これからは、留学で得た経験や、日本の素晴らしさを、周囲の人々に積極的に伝えていきたいと思います。